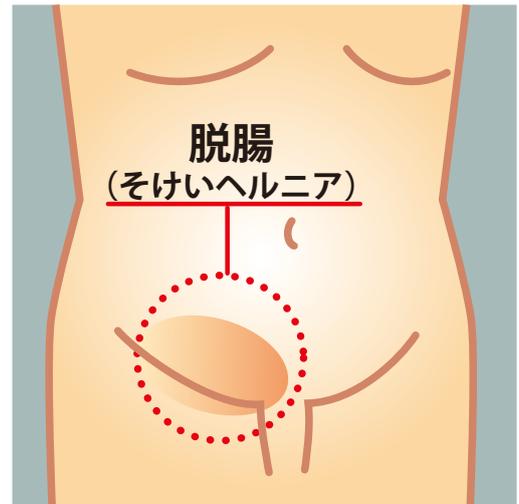


鼠径ヘルニア根治術について

「鼠径(そけい)」とは、太ももの付け根の部分のことをいい、「ヘルニア」とは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。

「鼠径ヘルニア」とは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、多くの場合、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。一般の方には「脱腸」と呼ばれている病気です。脱腸(鼠径ヘルニア)は乳幼児から高齢者まで幅広く起こりうる病気であります。乳幼児(小児鼠径ヘルニア)の場合は、先天的な要因がほとんどですが、成人(成人鼠径ヘルニア)の場合は運動不足も含めてカラダの組織が弱くなるのが要因であります。

中年以上の男性に多く見られ、中でも立ち仕事をしている人や便秘症・肥満気味の人が多いと言われています。



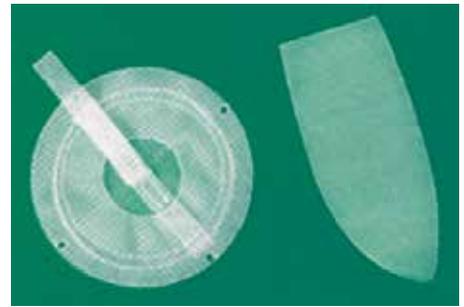
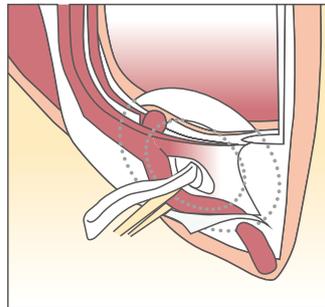
鼠径ヘルニアとは

- ① **外鼠径ヘルニア(脱腸)** ほとんどの幼児と成人が発症するのが、外鼠径ヘルニアです。腹壁の外側に出てきます。
- ② **内鼠径ヘルニア(脱腸)** 中年以降の男性に多いのが、内鼠径ヘルニアです。鼠径部後方の腹壁を腸が突き破り、ヘルニアが起こります。
- ③ **大腿ヘルニア(脱腸)** 女性に多いのが、大腿(だいたい)ヘルニアです。特に出産後の女性に多いのが特徴です。鼠径部の下、足への血管の脇へはみ出すヘルニアです。最も嵌頓を起こしやすいヘルニアなので早急に治療が必要です。

※上記の2つ以上のヘルニアが合併するケースもあります。

治療

脱腸(鼠径ヘルニア)の治療法は「手術」です。「薬」や「安静」「保存療法」といった治療方法での完治はありません。



近年開発された、人工補強材で穴をふさぐ手術方法の場合、飛び出てくる部分に人工の膜(上写真)を張り合わせます。人工の膜(ポリプロピレンメッシュ)は40年ほど前から使用され、世界で120万個以上の臨床使用の実績があり、体内使用の安全性は確立されています。この手術方法は、メッシュ・プラグ法・リヒテンシュタイン法、クーゲル法・ダイレクトクーゲル法といった派生法があります。脱腸の場所や程度によって使い分けます。

手術合併症について

- ① 術中：出血、神経損傷、精巣動静脈損傷、精管損傷、腸管損傷、膀胱損傷など
- ② 術後：皮下出血、陰嚢や鼠径部の腫脹、陰嚢水腫、創感染など

腰椎麻酔の合併症について

※術式および全身状態・麻酔深度によっては全身麻酔になることもあります。

- ① 術中：血圧低下、呼吸抑制、悪心・嘔吐など
- ② 術後：頭痛、脳神経麻痺第Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅶ脳神経(特に外転神経麻痺による複視)、脊髄神経麻痺(馬尾症候群)、髄膜炎など